



令和元年度発掘調査
埋文

さかど年報



勝呂廃寺G地区出土軒丸瓦

坂戸市教育委員会

序 令和元年度発掘調査概況

坂戸市は市域の大部分を平坦な台地（坂戸台地・毛呂台地）が占めており、台地の縁辺部には越辺川や高麗川などの中小河川と広大な沖積平野が広がっています。安定した台地と豊かな水源、肥沃な沖積平野といった恵まれたこの土地では、いにしえから人々の豊かな生活が営まれてきました。その活動の痕跡として、市内には旧石器時代（約15,000年前）から中近世に至るまで、数多くの遺跡が存在しています。現在登録されている市内の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の数は152か所にも及び、毎年多くの発掘調査が行われています。

調査の大半は、開発によって失われていく遺跡の記録作成を目的としたもので、住宅建設や公共事業などに伴い、令和元年度には25件の発掘調査が市内各地で実施されました。

また、平成30年度に引き続き、古代寺院跡「勝呂廃寺」の保存を目的とした内容確認調査を駒澤大学考古学研究室と合同で実施しました。

市内に残る貴重な遺跡を保存し、未来へと受け継ぐことが現代に生きる我々の大切な使命といえます。

おもなできごと

旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代
約3万5千年前	約1万2千年前	約2,300年前	約1,750年前	約1,450年前	約1,300年前	約1,200年前	約800年前
大陸から日本列島へ人々が渡ってくる	市内最古の土器（縄文時代早期） 土器誕生 市内で石器が出土（後期旧石器時代）	大家地区で多彩な耳飾りが出土 市内各所で環状集落が営まれる（縄文時代中期）	青銅器（銅鐸）などが使用される 稲作伝来・鉄器などが使用される 佐賀県吉野ヶ里遺跡の環濠集落などができる 墳丘墓の出現	大化の改新（乙巳の変）645年 勝呂廃寺や東山道武蔵路がつくられる 市内で古墳がたくさん造られる 国内で須恵器の生産が始まる 前方後円墳の出現	平城京遷都（710年） 秩父で和銅が産出 和同開珎鑄造 若葉駅周辺に大規模な集落が出現する	平安京遷都（794年）	鎌倉幕府成立 壇ノ浦の戦いで平家滅亡（1185年） 入西地区や勝呂地区の武士が活躍する 武蔵武士が活躍 関東で平将門の乱が発生（935年）

黒曜石製の石器
（長岡遺跡21区/後期旧石器時代）



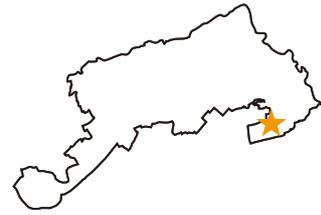
方形周溝墓
（金内山遺跡3区/弥生時代後期）



竪穴住居跡
（下山田遺跡3区/平安時代）



調査期間 令和元年5月7日から7月16日まで
 調査理由 個人住宅建設
 調査面積 413㎡
 検出遺構 竪穴建物跡1軒(古墳時代前期)
 溝跡1条(中世以降)



動物骨出土状況③



①

調査区全景(北から)

地中から現れた大溝

調査区を囲むように巡る1号溝は、調査区外へ延びるため全体像は不明です。(写真①・②)

溝が道路の下を走行しているため、現在の道路は溝の区割りを踏襲している可能性もあります。溝からは馬の歯とみられる動物骨が出土しました。(写真③)

大穴遺跡は、東坂戸団地南側の台地上に位置する遺跡です。発見された1号竪穴建物跡は、南北軸4.8m、東西軸は約6mを測ります。四方にある4本の柱穴が主柱穴として上屋を支えていたとみられ、中央付近には煮炊き等に使用されたとみられる炉跡が検出されました。出土遺物などから建物跡の年代は、古墳時代前期と推定されます。

また、今回の調査では大溝1条が検出されました。溝は調査区外周を囲むようにL字に走行しています。覆土中からは、中世の陶磁器片や馬骨などが発見されており、溝の開削時期は中世以降とみられます。大穴遺跡の一带には中世の城館や近世の陣屋があったとの伝承があることから、今回発見された溝については、これらとの関連性も視野に入れて詳細な研究が必要です。



②



④

1号竪穴建物跡(北から)

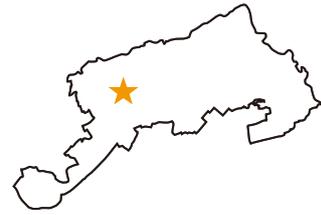
古墳時代前期の竪穴建物跡。多数の柱穴と赤く焼けた炉跡が確認できます(写真④)。

2

西浦遺跡41区(坂戸市大字新堀字橋場)

基本情報

調査期間 令和元年6月4日から6月18日まで
 調査理由 個人住宅建設
 調査面積 55㎡
 検出遺構 溝跡1条(古代以降)
 土坑1基(古代以降)



西浦遺跡は、坂戸市西部の毛呂台地上に位置しており、古墳群をはじめ各時代の遺構が密集する遺跡です。

今回の調査では、溝跡1条と土坑1基が発見されました。溝はやや蛇行しながら東西に走行しています。縄文土器や須恵器の破片がわずかに出土しており、周辺の他の時期の遺構から混入したものとみられます。判断材料が少ないため遺構の用途や時期判定はできませんが、今後の調査成果の蓄積によって明らかとなるかもしれません。



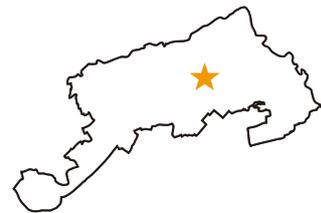
調査区全景(西から)

3

大智寺遺跡3区(坂戸市石井土地区画整理事業地内)

基本情報

調査期間 令和元年7月16日から8月7日まで
 調査理由 土地区画整理事業
 調査面積 145㎡
 検出遺構 土坑2基(中近世・時期不明)



大智寺遺跡は、坂戸市中央部の石井土地区画整理事業地内にある遺跡です。発見された土坑のうち1基は深さが約1mの円形土坑で、覆土中からかわらけ^{※1}の破片が出土したことから中近世の遺構である可能性があります。

土坑の用途や詳細な時期は不明ですが、今回の調査区の南側には、中世に創建された真言宗智山派の龍護山大智寺があることから、寺院と関連のある遺構の可能性もあります。



調査区全景(東から)

調査期間 令和元年8月5日から9月3日まで
 調査理由 保存目的の内容確認調査
 調査面積 159㎡
 検出遺構 竪穴建物跡4軒(古墳時代終末期)
 溝跡1条(奈良・平安時代)
 土坑3基、柱穴9基(古代など)



① 調査区全景(空中写真)

勝呂廃寺で初確認の軒丸瓦
が出土
ふくへんはつれんげもん
 調査区北西側で「複弁8葉蓮華文」の軒丸瓦が出土しました。(写真②)この種類の瓦当文様は、勝呂廃寺では初の確認例となります。この瓦当文様と同様の範傷はんきずをもつ軒丸瓦が、県北の本庄かなくさうせき市金草窯跡で確認されており、県北の窯跡や寺院との関係性を考えるうえで貴重な発見となりました。

② 初確認の軒丸瓦

勝呂廃寺は、谷治川と越辺川の低地帯に挟まれた馬背状の台地やしがわに7世紀後半に創建されたとされる古代寺院です。

これまでの調査で寺院に関連する遺構や出土品が数多く発見されていますが、全体像については今もなお不明な点が多く残っています。

平成30年度に引き続き、駒沢大学考古学研究室と合同で発掘調査を実施しました。今年度の調査では、寺院創建前の古墳時代終末期に営まれていた竪穴建物跡や、寺院の建造物を造営する際に土取りをしたとみられる土坑などが発見されました。

また、調査区内で確認された各遺構の新旧関係を検証していくと、寺域の南側を区画する大溝の開削年代が8世紀中頃以降となる可能性があり、寺域の変遷を考えるうえでの重要な調査成果を得ることができました。

旧勝呂公民館分館駐車場の一角が寺域の中心とみられます。(写真①)

遺跡の現地説明会は多くの方が見学に訪れました。(写真③)

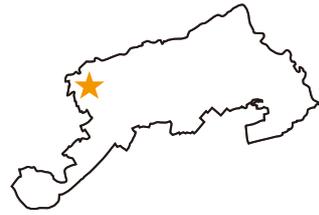


② 軒丸瓦(複弁8葉蓮華文)出土状況



③ 現地見学会の様子

調査期間 平成31年4月2日から令和元年9月6日まで
 調査理由 個人住宅建設
 調査面積 759㎡
 検出遺構 竪穴建物跡33軒(縄文時代中期～平安時代)
 掘立柱建物跡1軒(時期不明)
 溝跡2条(古代以降) 土坑6基(縄文時代等)
 柱穴30基(古代等) 集石遺構1基(縄文時代中期) 石器集中遺構1か所(後期旧石器時代)



調査区全景(空中写真撮影)

長岡遺跡は、毛呂台地西部にある遺跡で、北と西には越辺川を臨みます。その好立地から、様々な時代の遺構が濃密に分布しています。今回の調査では、調査区のほぼ全面で遺構が検出され、古墳時代後期の竪穴建物群を中心に多種多様な遺構が検出されました。

3号竪穴建物跡



3号竪穴建物跡から出土した石

20号竪穴建物跡

**建物内から河原石が大量出土
古墳づくりのために集積か？**

3号竪穴建物跡や20号竪穴建物跡では、床面付近から大量の石が出土しました。こぶし大から人頭大の河原石が主体で、調査区至近の越辺川の河川敷で採取されたものとみられます。長岡遺跡の約500m南側には苦林古墳群（にがばやしこふんぐん）が広がっており、多くの古墳の墳丘上に葺石が施されています。越辺川に最も近い長岡の集落で採取された石材が古墳築造に供給されていたのかもしれませんが。

廃棄場所か？
床面付近から大量の遺物出土



11号竪穴建物跡



11号竪穴建物跡の床面付近からは大量の遺物が出土しました。大半は土師器で、他の遺物としては須恵器や炭化した種子、骨片なども出土しました。完形品はほとんど存在しないことから、建物廃絶後に、廃棄場所とされていたものとみられます。

貯蔵穴内から平安時代の灰釉陶器出土



18号竪穴建物跡遺物出土状況
接合した灰釉陶器長頸壺



18号竪穴建物跡は大半が調査区外となったため、全体像は不明ですが、調査区壁の際で検出された貯蔵穴からは灰釉陶器の長頸壺が出土しました。

灰釉陶器は人工的に釉薬をかけて焼かれた焼き物で、主に東海地方で生産されていました。

坂戸市内の遺跡で発見される全体量は少なく、貴重な遺物であるとともに、当時の物流の様相を研究するための資料となります。

平安時代末期の竪穴建物跡 土器の下から不明鉄製品出土

27号竪穴建物跡の床面付近からは複数の、須恵器坏が伏せた状態で重なって出土しました。

坏を一点ずつ取り上げたところ、最下部から椀型の鉄製品出土しました。鉄製品は、柄のないお玉のような形をしており、現段階では何に使用したものなのか、どうしてこのような状態で出土したのか、その一切が不明です。

巧みに作られた古墳時代のカマド 凝灰岩質砂岩を構築材に使用



27号竪穴建物跡遺物出土状況



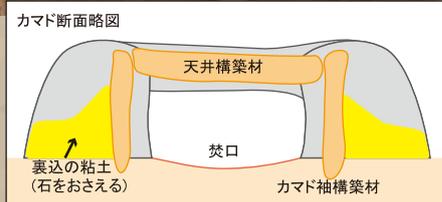
28号竪穴建物跡



カマド検出状況

今回の調査では10基以上のカマドが検出されました。カマドの構築方法には時代や地域、集団などの差によって特色がみられることがあります。

28号竪穴建物跡のカマドは岩殿丘陵などで採掘できる凝灰岩質砂岩を構築材として使用しており、残存状態の良さから巧みな構築状況が明らかとなりました。



旧石器人の休憩場所？ 石器集中遺構見つかる



石器集中全景写真



今回発見された黒曜石(ほぼ原寸大)

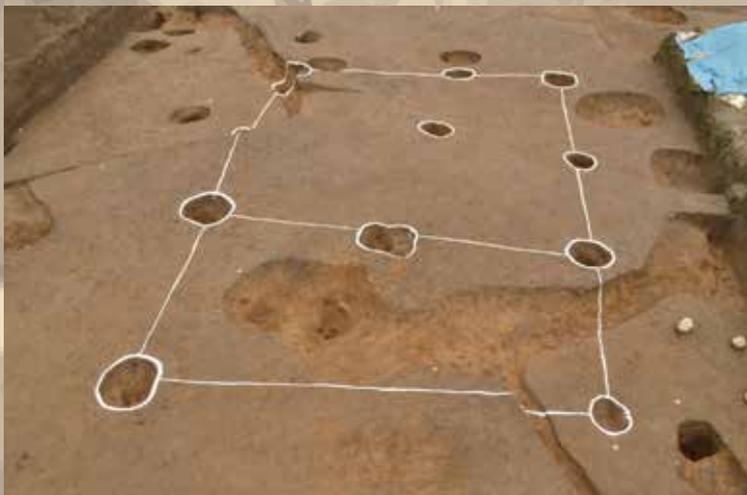
今回の発掘調査中、古墳時代の竪穴建物跡の壁付近から関東ローム層に突き刺さったナイフ形石器1点が発見されました。石器の出土地点を中心にローム層を慎重に掘り下げた結果、キラキラと光る黒曜石の破片が次々と出土しました。黒曜石片は合計99点発見され、その大半が5mm以下の剥片でした。この小さな剥片は石を加工し、石器を作る際に発生したもので、この場所で石器作りを行っていたことが明らかとなりました。

狩猟中のハンターがこの場所に腰をおろして狩猟具の手入れをしていたのかもしれません。



土層断面

その他の遺構



1号掘立柱建物跡

調査区内で検出された掘立柱建物跡は写真の1棟のみです。遺物がほとんど出土していないため建物の時期については不明です。

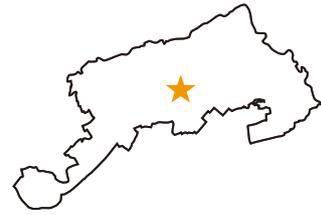
1号溝は調査区内を東西に走行しており、確認された総延長は70mにもなります。

多くの竪穴建物跡を切っているため、流れ込んだものも含め大量の遺物が出土しています。溝の正確な掘削時期は不明ですが、出土遺物から古代に掘削された溝と考えられます。



1号溝(調査区西側)

調査期間 令和元年10月17日から11月29日まで
 調査理由 個人住宅建設
 調査面積 51㎡
 検出遺構 竪穴建物跡3軒(平安時代)



下山田遺跡は坂戸市中央部の市街地内にある遺跡です。今回発見された竪穴建物跡は3軒で、いずれも平安時代(9世紀後半)のものと考えられます。

1号竪穴建物跡は調査区の南側で発見され、約半分強が調査対象となりました。

カマドは東壁に構築されており、火床面や煙道、天井部は激しく被熱していました。

床面付近からは須恵器の坏や、ほぼ完成形の長頸壺、石製紡錘車や大型の砥石、鉄釘など多彩な遺物が出土しました。

また、建物の中央付近では約40cmの扁平な礫1点が発見されました。この石は作業台として使用されていた可能性もあり、砥石などが出土した点も踏まえると、この建物は鉄製品などを加工する作業場の機能持っていたのかもしれませんが。



①

1号竪穴建物跡

床面には作業台のように平らな石が置かれていた(写真①)



②

1号竪穴建物跡カマド

残存状況は良好で煙道もはっきりと確認できる(写真②)

1号竪穴建物跡から刻書土器1点が出土しました。発見された刻書は「余」の一字で須恵器坏の破片に刻まれていました。

刻書は須恵器が焼成される前(乾燥段階)に刻まれており、余の字の続きにも何か刻まれていたのかもしれませんが。

刻書土器



余

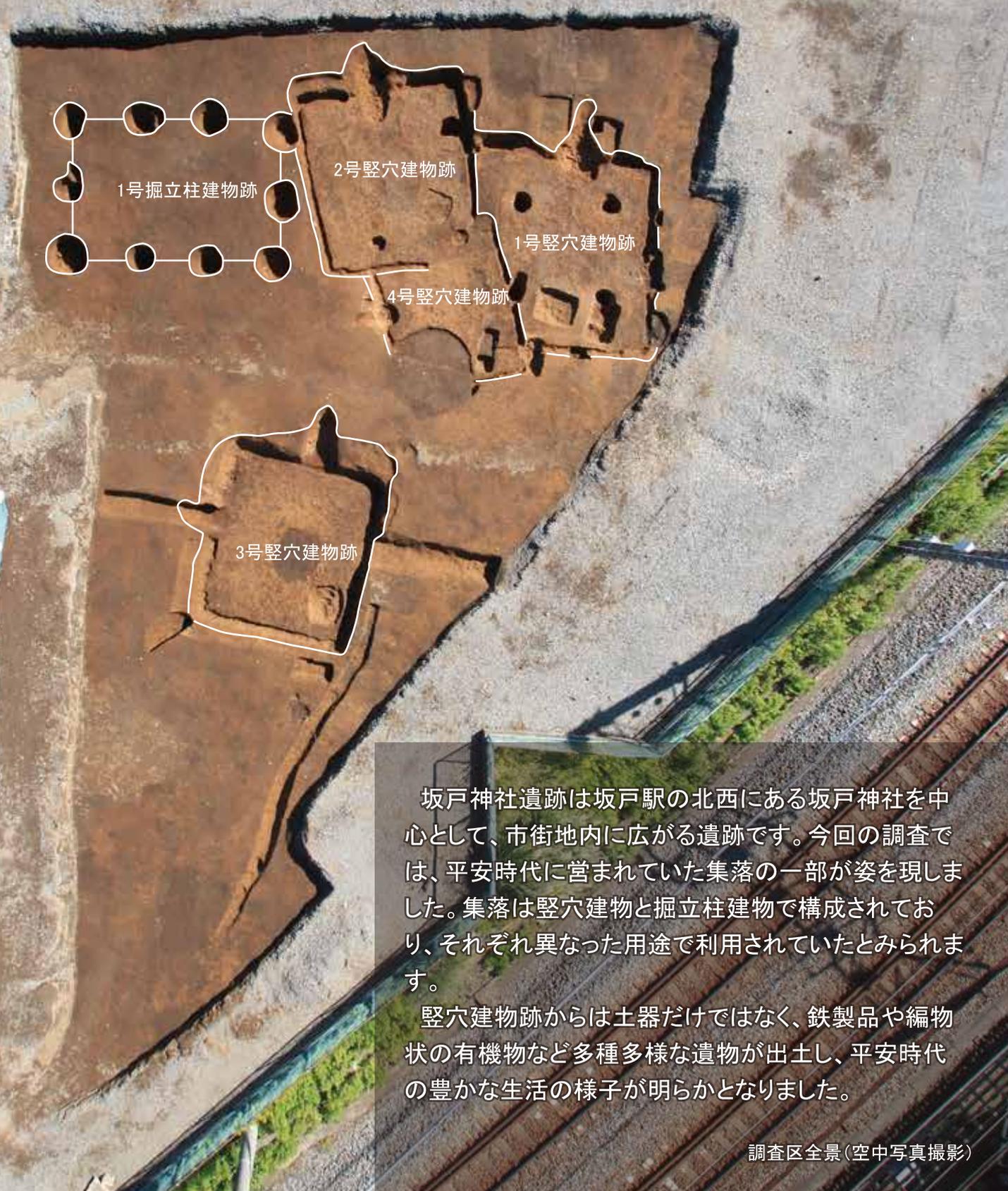
竪穴建物跡から刻書土器出土
 須恵器片に「余」の文字



③

1号竪穴建物跡出土遺物

調査期間 令和元年8月20日から11月14日まで
 調査理由 寄宿舍建設
 調査面積 298㎡
 検出遺構 竪穴建物跡4軒(平安時代)
 掘立柱建物跡1軒(平安時代)
 溝跡2条(古代以降) 土坑1基(古代)



坂戸神社遺跡は坂戸駅の北西にある坂戸神社を中心として、市街地内に広がる遺跡です。今回の調査では、平安時代に営まれていた集落の一部が姿を現しました。集落は竪穴建物と掘立柱建物で構成されており、それぞれ異なった用途で利用されていたとみられます。

竪穴建物跡からは土器だけではなく、鉄製品や編物状の有機物など多種多様な遺物が出土し、平安時代の豊かな生活の様子が明らかとなりました。

2号竪穴建物跡から多様な出土品 平安時代の豊かな生活物語る

2号竪穴建物跡からは刀子、鉄製紡錘車などの鉄製品や、漆紙が付着した土器、石製紡錘車など豊富な遺物が出土しました。

刀子は、ものを切る道具として用いられたほか、木簡に書いた文字を訂正する際の書刀などにも使用されました。墨書土器などが出土している点も踏まえると文字を書くことのできる人々が生活していたことも想定できます。



2号住居跡

また、紡錘車が出土したことから、集落内で糸を紡いでいたことが明らかとなり、遺物として残ることのない、布製品や漁労用の網など多種多様な物品が作られていた可能性があります。これら多種多様な出土品は、この集落の豊かな生活の様子を現代に物語っています。



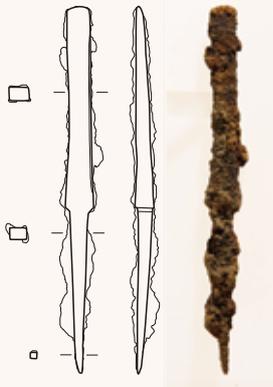
刀子



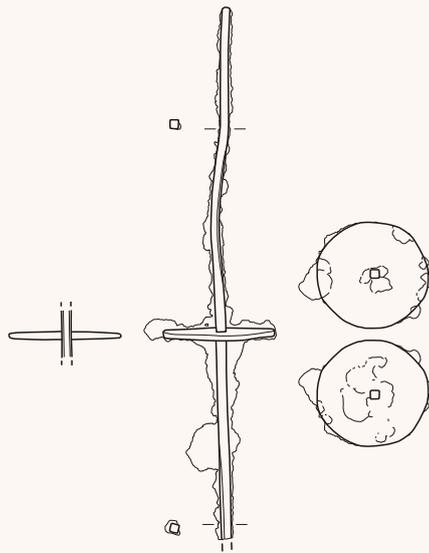
石製紡錘車



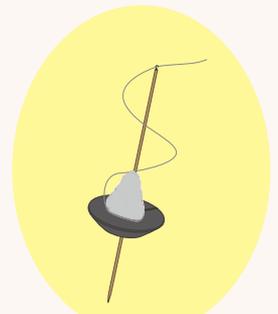
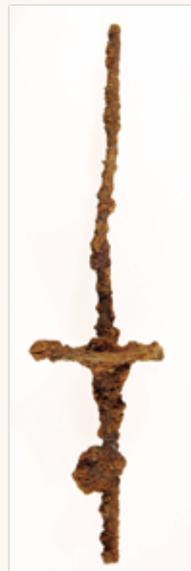
鉄鎌



鉄鎌



鉄製紡錘車と棒軸

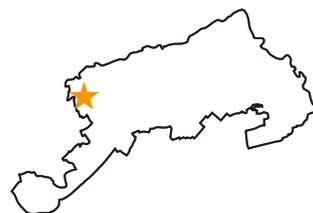


紡錘車イメージ図

S = 1/3

2号竪穴建物跡出土遺物

調査期間 令和2年1月20日から2月27日まで
 調査理由 個人住宅建設
 調査面積 53㎡
 検出遺構 竪穴建物跡5軒(古墳時代)
 土坑1基、ピット2基(時期不明)



よみがえる古墳時代の生活 多量の土師器地中から姿現す

1号竪穴建物跡からはほぼ完形のものも含め
 数多くの土師器が出土しました。

器種は貯蔵用の壺や煮炊きに使った台付甕、食器や共膳具として用いられた高坏など多岐にわたり、土器が用途ごとに使い分けられていた様子が明らかとなりました。



22区は先ほどの19～21区の南側に位置し、古墳時代前期の竪穴建物跡1軒と、後期から終末期の竪穴建物跡4軒を検出しました。

古墳時代前期の1号竪穴建物跡は約半分は調査区外となりましたが、建物の中央部付近で河原石を用いた炉跡が検出されました。床面付近からはバラエティに豊かな土師器が出土し、この時期の土器様相を示す良好な一括資料となりました。

古墳時代後期から終末期に作られた竪穴建物跡3軒は複雑に重なり合って発見されました。このうち4号竪穴建物跡は床下の調査状況から、拡張を目的として建て替えを行っていることが明らかとなりました。

近年長岡遺跡では、調査事例の増加に伴い、古墳時代後期の大規模集落の姿が徐々に明らかとなってきています。

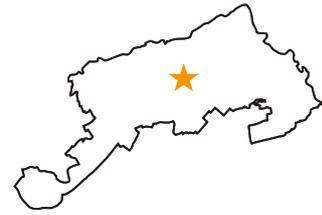


1号竪穴建物跡



調査区全景

調査期間 令和2年1月7日から3月6日まで
 調査理由 土地区画整理事業
 調査面積 303㎡
 検出遺構 方形周溝墓2基(弥生時代)
 溝2条(中近世)



金内山遺跡は坂戸台地北西部の飯盛川沿いにある遺跡です。周辺では過去の調査で複数の方形周溝墓が発見されており、今回発見された周溝墓は、これまで発見されていた台地縁辺部よりもさらに内陸の一段上がったところで発見されており、墓域がさらに広範に及ぶことが明らかになりました。

2基の方形周溝墓は並んだ状態で検出され、周溝の一部を共有しています。土層から明確な新旧関係が見られなかったことからほぼ同時期に築造されたものとみられます。墳丘は削平されていますが、中央部付近からは埋葬施設とみられる土坑が発見されました。

出土品はほぼありませんでしたが、出土した土器片の特徴から弥生時代後期の周溝墓とみられます。



1号方形周溝墓

周溝の一部を2号方形周溝墓と共有する

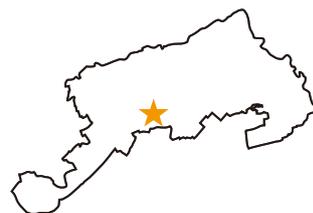


2号方形周溝墓

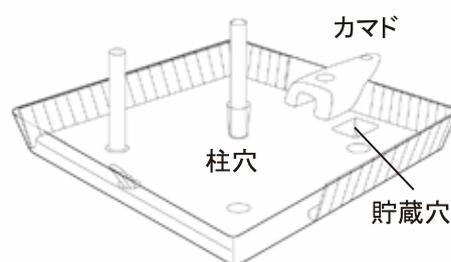


方形周溝墓のイメージ図

調査期間 令和2年3月11日から3月25日まで
 調査理由 個人住宅建設
 調査面積 10㎡
 検出遺構 竪穴建物跡1軒(奈良時代)



調査区全景



竪穴建物の構造(イメージ図)

花影遺跡は坂戸市中央部の市街地内にある遺跡です。30区は遺跡の東側に位置しており、これまでの調査で奈良・平安時代の集落跡が発見されています。

今回の調査では奈良時代の竪穴建物跡1軒が発見されました。

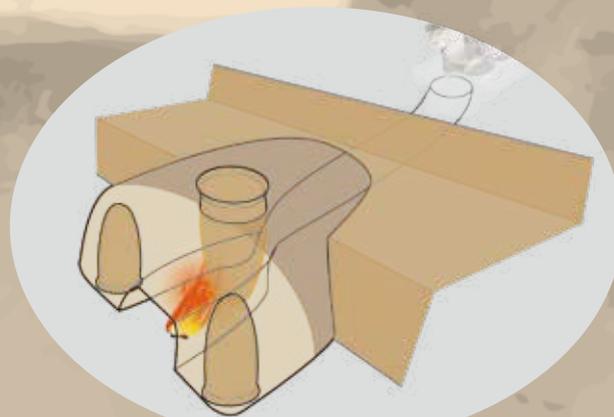
竪穴建物跡の大半は調査区外となっておりますが、北壁にはカマドが設けられており、良好な状態で検出されました。

カマドの煙道は長く、壁面まで強く被熱していました。カマド両袖の構築土内には土師器の甕が逆位設置されており、袖の構築材として甕を転用していた様子が明らかとなりました。

出土した土師器や須恵器等の遺物や、周辺遺跡との比較検討からこの竪穴建物跡の年代は奈良時代とみられます。

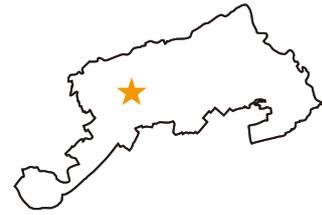


カマド全景写真



カマドの構造(イメージ図)

調査期間 令和元年10月31日から12月20日まで
 調査理由 個人住宅建設
 調査面積 171㎡
 検出遺構 竪穴建物跡7軒(弥生時代～平安時代)



検出された竪穴建物群



5号竪穴建物跡出土遺物

西浦遺跡42・43区は西浦遺跡の北西側にあたり、北側には入西小学校があります。調査では多くの竪穴建物跡が発見されました。西浦遺跡では発見例の少ない弥生時代後期から古墳時代前期頃の竪穴建物跡が複数検出され、調査区一帯に集落域が広がっていたことが明らかとなりました。

また、残存状況は不良でしたが、平安時代の2号竪穴建物跡からは遺物が多量に出土しており、特筆すべき出土品として、緑釉陶器の輪花椀りんかわんがほぼ完形な状態で出土しました。緑釉陶器は平安時代の高級食器で、古代の役所やそれに関連した集落で発見されることが多く、遺跡の性格を考えるうえでの重要な発見となりました。

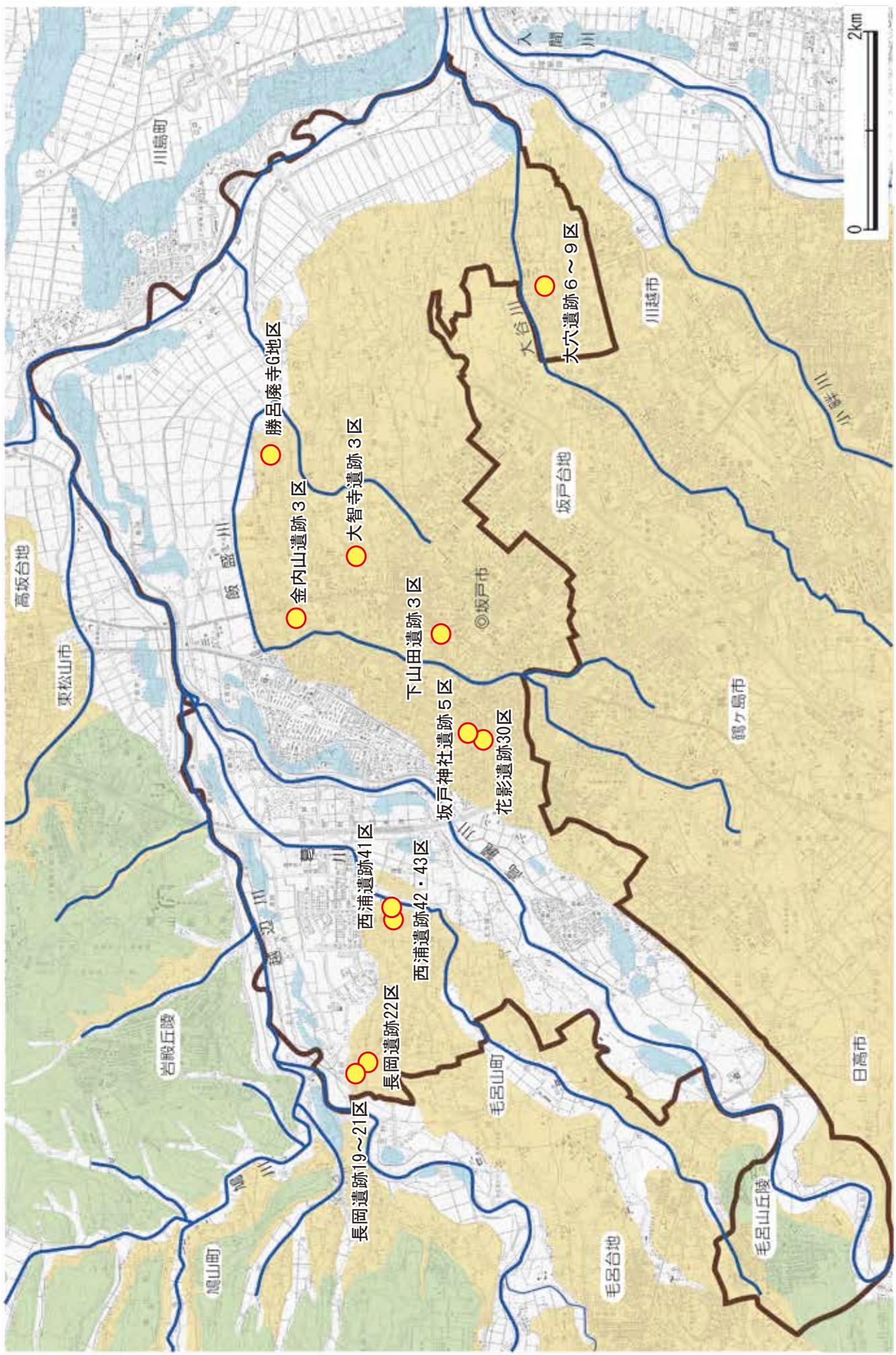


2号竪穴建物跡から出土した緑釉陶器輪花椀

**平安時代の高級食器
ほぼ完全な状態で出土**

2号竪穴建物跡から緑釉陶器が発見されました。出土品は口縁部に5つの刻みを施した「輪花椀」と呼ばれるもので、半分に割れた状態で床面付近から出土しました。緑釉陶器は当時の高級品で、市内での発見例はこれまで破片資料のみでした。ほぼ完形のもので発見されたのは今回が初めてで貴重な発見といえます。

令和元年度調査遺跡 (次年度継続事業を除く)



低地
 自然堤防
 台地
 丘陵

埋文さかど年報
 (令和元年度発掘調査)

■発行 / 令和3(2021)年3月26日
 ■発行者 / 坂戸市教育委員会 埼玉県坂戸市千代田一丁目1番1号
 ■印刷 / 有限会社 タイアップ・ユウ